

【ACKG 受注高700億を確保 重点化計画108件以上 総合化で事業拡大】

ACKG

受注高700億を確保

重点化計画108件以上 総合化で事業拡大

ACKGグループは、新中期経営計画の初年度となる今年(2019年9月期)、108件以上の重点化プロジェクトを推進し、事業領域を拡大していく。受注高は700億円程度を確保。過去最高を記録した前期を上回る売上高と各利益を見込む。28日に開いた18年9月期決算説明会で野崎秀則社長は「新中期経営計

画のもと、着実な成長を進めていきたい」と力を込めた。重点化事業は、従前の8事業から▽インフラ整備・保全▽防災▽交通(高度化・総合化)▽地方創生▽海外新規開拓の5事業に集約。現時

点でインフラ整備・保全が32件、防災17件、交通16件、地方創生38件、海外新規開拓で6件の重点化プロジェクトを進めていく。

この中では特に上流から下流まで実施する垂直統合と事業分野を横ぐしする複合化による「総合事業」に取り組み、

エリアマネジメントを展開。新たな社会価値を創造することで国内外の市場拡大を目指す。

19年9月期の売上高は前期比1・5%増の540億円、営業利益は5・8%増の21億円、経常利益が11・2%増の20億3000万円、純利益は22・0%増の12億6000万円と、8期連続の増収増益を見込む。受注残高も事業期間の長い大型案件を複数受注した海外の大きな伸びが寄与し、29・6%増の932億9900万円まで積み上がって

いる。

3カ年計画最終となる21年9月期は売上高590億円、営業利益24億円、25年ビジョン最終の25年9月期には売上高700億円以上、営業利益30億円以上を目標に掲げている。